

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

得意な仕事の仕方でも成果を上げる (P. F. ドラッカー)

1. 驚くほど多くの人たちが、仕事にはいろいろな仕方があることを知らない。そのため得意でない仕方でも仕事をし、当然成果はあがらないという結果に陥っている。生まれつきか育ちかは別として、仕事上の個性は仕事に就く前に形成されている。人は、強みを発揮する仕事で成果を上げるように、得意な仕事の仕方でも成果を上げる。
2. 仕事の仕方としては、人と組むほうがよいのか、一人のほうがよいのかを知らなければならない。組んだほうがよいのであれば、どのように組んだときにより仕事ができるのかを知らなければならない、大きな組織で働くほうが仕事ができるのか、小さな組織のほうが仕事ができるのかも知らなければならない。
3. 自分は意思決定者と補佐役のどちらで成果を上げるのかという問題もある。補佐役として最高でありながら、意思決定の重荷に耐えられない人もいる。これらのことはかなり若いうちに決まる。今さら自らを変えようとしてはならない。うまくいくわけがない。自らの得意とする仕事の仕方を向上させていかなければならない。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2007年12月8日号)

ワンポイント経営アドバイス

老舗企業を目指す

塚越 寛 (伊那食品工業会長)

1. 会社の真の目的、価値とは、永続することです。歴史、伝統のある会社というのは、なんとなく品格があって、文化的な香りがして、社員の態度がよいものです。自社を利することだけでなく、町づくりに携わるなどして地域に貢献している。
2. そこに会社の理想を見た私は、真の老舗を目指していこうと考えて、次の五項目を目標として掲げました。
 - ① 無理な成長をしない
 - ② 安いというだけで仕入先を変えない
 - ③ 人員整理をしない
 - ④ 新しくよりよい生産方法や材料を常に取り入れていく
 - ⑤ どうしたらお客様に喜んでいただけるかという思いを、常に持ち続ける。

(参考:「致知」:2008年2月号)

人事・労務について

初任給が上がっていない理由

1. 新規学卒者の就職内定率は上昇傾向にある。4年制大学卒業予定者の就職内定率は2003年度(2004年3月)卒までは前年10月時点で60%、最終的(翌年4月初めの時点)に93%前後にとどまっていたが、2007年3月卒業予定者では最終的に96%を突破。今年卒業予定者に関しては昨年10月時点ですでに7割の水準に達しており、新卒者採用は売り手市場の様相を強めている。
2. ところが、初任給額は一向に上昇していない。2007年の新規大卒者の初任給額(基本給+通勤手当を除く諸手当)は、19万5800円で前年を5000円(0.3%)下回った。景気が拡張局面に転じた後の2003年をピークに、その後は足踏み状態を続け、その水準は就職氷河期からほとんど変わっていない。就職を希望する新規学卒者の過半数が4年制大卒者となり、「大卒者=幹部候補生」とはいえないケースが多くなっていることもあるようだ。

(参考:「週刊東洋経済」2008年1月5日号)

古典に学ぶ

日の長短は心にあり

「怠惰の冬日は、何ぞその長きや。勉強の夏日は、何ぞその短きや。長短は我れに在りて日にあらず」
(訳) なにをすることもなく暮らす冬の日は何と長いことか。懸命に励んでいる夏の日は何と短いと思う。長い短いとは自分の心次第であって日にあるのではない。

(参考:佐藤一斎「言志四録」): PHP文庫